

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號五第 卷三第

行發日一月一十年五正大

論說

節用論

田島錦治

最小活資ノ免稅ヲ論ズ(一)

神戸正雄

でぐるゝひゆゝノ經濟學說(六)

福田徳三

『ころに』の意義ニ就キテ

山本美越乃

課稅ト獨占價格(三完)

高田保馬

代表紙幣ト獨立紙幣(二)

作田莊一

戰後ノ人口増加政策(三完)

米田庄太郎

米券倉庫ヲ論ス(一)

河田嗣郎

雜錄

公營電物ニ關スル美濃部(織田)松本三博士ノ
所論ヲ讀ミテ東京市電車營業車券問題ニ及ブ

福田徳三

金紙ノ開キト物價騰貴トノ關係

河上肇

米國ニ於ケル地方財政審査所ノ發達

神戸正雄

富山縣ノ翁媪調査

財部靜治

經濟漫錄(一)

瀧本誠一

てづゐつゝ・ひゅーむノ經濟學說 (六)

(英國ノ學問トシテノ經濟學ノ成立概觀)

福田 徳三

十二

ばーぼん貿易論刊行ノ翌千六百九十一年匿名ノ一學者同ジク一篇ノ貿易并貨幣論ヲ著シテ更ラニヨリ多ク進ミタル思想ヲ開陳シタリ、此書ハあだむ、すみす以前ノ最大ノ自由貿易論ト稱セラ
ルル所ノモノニシテ其ノ着題ハ左ノ如シ。

Discourses upon Trade; principally directed to the cases of the Interest, coynage, clipping, increase of Money. (London : Printed for Tho. Basset, at the George in Fleet-street. 1691)

全篇十頁ノ序文、二十三頁ノ本文、五頁ノ追録トヨリ成ル一小冊子ニシテ序文ハ著書某氏ヨリ刊行ノ事ヲ依托サレタル友人ノ手ニ成リ著者ノ此書ニ對スル用意ヲ詳密ニ紹介セリ。著書ガ自ラ名ヲ著ケザル理由トシテ序文者ノ記スル所ハ左ノ如シ。

The Author is pleas'd to conceal himself, which after perusal of his Papers, I do not ascribe to any Diffidence of his Reasons, the Disguists of Great men, nor overmuch Modesty, which are the ordinary Inducements for lying

hid, but rather to avoid the Fatigue of digesting, and polishing his Sentiments into such accurate Method, and clean Style, as the World commonly expects from Authors : I am confident he seeks only the Publick Good, and little regards Censure for the want of Neatness, and Dress, whereof he seems to make a slight account, and to rely wholly upon the Truth, and Justice of his matter: yet he may reasonably decline the being noted, for either a careless, or an illiterate Person..... Wherefore I cannot but excuse our Friend's Retirement, and shall take advantage of his absence so far, as to speak of his Discourses with more freedom, than I venily believe his Presence would bear.

(著者ハ自己ヲ隠クスヲ欲ス子ハ彼ノ稿本ナ一讀ミテ其理由ハ普通匿名ノ理由タル自己ノ主張ヲ立ツルニ勇ヲ缺クガ爲メニアラス顯要ノ人々ヲ嫌フガ爲メニアラズ又ハ過度ノ謙遜ノ爲メニモアラザルヲ知ル。彼ガ理由ハ世間ガ普通書物ノ著作者ニ期待スル如キ精密ナル方式ト簡潔ナル文體トニ自己ノ思想ヲ咀嚼シ洗練スルノ勞ヲ厭フガ爲メナリ。予ハ信ズ彼ハ唯ダ公共ノ利益ヲ念トセルモノニシテ文ヲ練リ體ヲ飾ルガ如キ事ヲ一盡事ト做シ之ヲ缺クガ爲メニ非難ヲ被ムルヲ意トセズ一ニ全ク自說ノ真理ト正義トノミニ重キヲ置クモノナルヲ唯ダ世間ガ彼ヲ目シテ輕率ナル又ハ無學ナル者トナサンコトヲ欲セザルハ道理アルコトナリ。(中略)故ニ予ハ彼ガ名ヲ隠クスヲ看過セザル能ハズ而シテ此ヒ隱名タルコトヲ利用シテ彼ノ面前ニ於テ言ヒ得ルヨリヨリ多クノ自由ヲ以テ彼ノ書ニ就テ紹介スル所アラン)

ト以下數頁ニ涉リテ著者ノ文體ニ就テ論ジ學究的ニ第一第二其又タ小別等ヲ施コスノ愚ヲ説キ更ラニ著者立論ノ方法及態度ニ論及シテ著者ハベトこん及でかるトニヨリテ立テラレタル新哲學的方法即チ實證方法ニヨルモノナルコトヲ詳論ス。獨逸及日本ニ在リテハ往々ニシテ其例ヲ見ルコトナキニアラズト雖モ英人ノ著書ニシテ僅々二十三頁ノ本文ニ對シ十頁ノ序文ヲ添ユルガ如

キハ極メテ稀ナリ。而シテ實ハ其序文モ著者自ラノ筆ニ成ルモノニシテ他人代テ辯ズト云フガ如キハ世間ヲ欺ク一手段タルヲ知ルニ及ンデ吾人ハ晒然タラザルヲ得ザルナリ。著者ハ本文ノ議論ニ何等關係ナキ文體論哲學論ヲ某人ノ口ニ假托シテ序文ニ試ミタルハ何ノ必要アリテノコトナルヤ。此疑問ノ解決ハ聽テ本書カ一種特殊ノ事情ノ下ニ作ラレタルモノナルヲ明カニスルモノナリ。

匿名ノ著者モ序文ノ筆者モ共ニ當時英國ノ政治界ニ甚ダ顯要ノ地位ヲ占メタル而シテ見えゝむす二世財政大困難ノ時ニ突如トシテ身ヲ實業界ヨリ轉ジテ事實上ノ大藏大臣トナリ能ク財政整理ノ大事業ヲ遂行シ困難ヲ未然ニ救ヒタル大手腕家さ。だどれ。の。す其人ナルナリ。彼ノ兄ふらんしす。の。す即チざるふお。ど卿ハ内大臣トシテちや。れす二世及じゑ。むす二世兩朝ニ歴仕シ英國ノ政治上忘ル可カラザル人ナリ。此人決シテ惡人ニハアラザリシモ其性格堅固ナラズ政治上ノ操守高カラズ爲メニ國ニ累ヲ及ボセルコト擲カラズ。弟タルだどれ。の。すモ其聰明其機智其手腕ニ於テハマ。こ。れ。ガ評シテ one of the ablest men of his time ト云フ如クナリト雖モ其標置高カラズ切リニ政治上ニ榮達ヲ求メテ已マズ一度事實上ノ大藏大臣トシテ一世ニ時メキシモ一朝すちゆあ。と朝ノ顛覆ニ遇ヒテ榮枯所ヲ替ユルニ至リシカバ更ラニ其著述ニヨリテ新朝ニ容レラレンコトヲ欲シタリシナリ。是レ彼ガ單ニ貿易貨幣ノ事ニ通曉スルノミナラズ文學、哲學ノ造詣亦深キヲ示サンガ爲メニ長文ノ序文ヲ添エタル主タル理由ナリ。ろつしあ。評シテ曰

1) Macaulay, History of England. ch. IV. Tauchnitz edition vol. II. p. 89.

ク、

Sonst hat mein College und Freund, G. Hartenstein, gewiss Recht, wenn er aus der obigen Stelle, die allerdings viel Heterogenes zusammenwirft, den Schluss zieht, dass North in der eigentlichen Philosophie nicht eben zu Hause gewesen. Seine im Orient und in Handelsgeschäften hingebachte Jugend wird ihm an dergleichen Studien verhindert haben; und es ist nicht schön, dass er durch anscheinende Belesenheit dies verdecken wollte.

此言聊カ酷ニ失セリのトすが公人トシテ操守堅カラズ見識高カラザルハ甚ダ惜ム可キ所ナリト雖モ此一點ヲ以テ彼ノ哲學ノ造詣ヲ否認セントスルハ過ギタリ。英國ハ少クトモ其大ナルベトニ於テ人トシテ甚ダ下劣ナル而モ學問ニ於テ甚ダ深奥ナリ得ル一例ヲ有スルニアラズヤ。否獨逸ノ哲學者ニモ類似ノ例ハ絶無ニアラズ。

のトすノ一生ハ甚ダ傳奇的ナリ。彼ハ千六百四十一年ニ生レ幼ニシテ身ヲ貿易ニ投ジすみるな、こんすたんちのトぶる等ニ居住シ二十一歳ニシテ既ニコ府ニ於ケル英國土耳其會社有數ノ一人タリシト云フ。年四十ニシテ英國ニ歸リ千六百八十五年ジエーむすニ世登極後ノ財政紊亂ニ際シ新稅ヲ起ス大事業ヲ托セラレ其業ヲ成シ遂ゲタリ。まこーれー記シテ曰ク『彼ハ幼ニシテ小亞細亞ニ赴キ商業ニ從事セリ。多數ノ人ハ此クノ如キ境遇ニアリテハ自己ノ修養ノ荒ムニ任カスナル可シ。すみるな、こんすたんちのトぶるニハ讀ム可キノ書少ク交ル可キ良友ニ乏シ。然ルニ彼ハ境遇ニ支配セラレズ外部ノ助ケヲ待タズ自己ノ絶倫ノ精力ヲ以テ獨リ退イテ貿易ノ哲理ニ念ヲ潜メ

2) Roscher, a. a. O. S. 92. Anmerkung.
3) 彼ノ弟 Roger North (是レ又ノーノ經濟學者ナリ)ハ其兄内大臣ぎるごふに一ビ及だざれーのトす兩者ノ傳記ヲ公ケニセリ、即チ前者ハ Life of the Right Hon. Francis North, Baron Guilford, Lord Keeper of the Great Seal etc. 1742. (2. E. 1808.) 後者ハ Life of the Hon. Sir Dudley North etc. 1744 是レナリまこーれーハ其 History of England ch. IV 千六百八十五年條下ニ於テ稍々詳シクの一トすニ就テ論述セリ Tauchnitz Edition vol. II. pp. 88-90. ナ見ヨ Dictionary of National biography ニモの一トすノ傳ヲ收ム。

終ニ百年ノ後あだむ、すみすニヨリテ唱道セラレタル所ト實質ニ於テ同一ナル完全ニシテ敬服ス可キ學說ヲ考へ出セリ。其倫敦ニ歸リテ土耳其貿易商タルヤ彼ガ商業ノ問題ニ關シテ有セル學理上及實際上ノ深キ智識ト其自說ヲ説明スルニ透徹的ニシテ英氣潑瀾タル直チニ政治界ノ認ムル所トナレリ。政府ハ又タ彼ニ於テ聰明ナル忠言者ト而シテ唯々諸々躊躇スル所ナキ奴隸トヲ見出セリ。何トナレバ彼ガ稀有ノ天稟ハ放逸ナル主義同情ナキ心腸ト結ビ付キアレバナリ」ト。更ラニ彼ガ議會ニ於ケル有様ヲ叙シテハ曰ク「古キ議員等ハ議員トナリテ未ダ二週間ヲ經ズ其生涯ノ大部分ヲ外國ニ暮シタル此人ガ大藏大臣ノ一切ノ職務ヲ深キ自信ヲ以テ擔任シ而シテ巧ミニ之ヲ處理シテ過ル所ナキヲ見テ驚愕ノ眼ヲ張レリ。彼ノ立案ハ採用セラレタリ而シテ王室ハ英國々内ノミヨリ約百五十萬磅ノ純收入ヲ得ルニ至レリ。此クノ如キ收入ハ平和ノ時ニ於テ政府ヲ支フルニ用キテ餘アル所ナリ」ト。⁶⁾

の一すハ其貿易論一篇ノ主張タル自由貿易論ガ破天荒ノ新說ニシテ時勢ニ先ダツ遠ク從テ世人之ヲ喜バザル可キヲ慮リ其書ニ名ヲ表ハサズ他人ノ依托ニヨリテ刊行スルモノノ如ク裝ヒタレトモ而モ其真意ハすちゆあーと朝崩壞後ノ新時代ハ自由ト財産ノ保障ヲ主義トスル革命時代ナレバ彼　主張タル自由貿易主義ハ容易ニ其時代ノ思想トナルニ至ル可ク然ラバ其唱道者タル彼ハ必ズ再タ時ノ寵兒タルヲ得可シトシタルモノナルガ如シ。然ルニ彼ノ憂慮ノ的中シタルト共ニ彼ノ豫

4) 同上八十九頁、大意ヲ意譯ス。

5) 同上書九十頁。

想ハ全然外レ自由貿易説ノ容レラレザルノミカ保護特惠ノ舊思想ハ依然トシテ渝ラザリキ。是レ即チ此貿易論ノ一書ノ忽然トシテ跡ヲ絶チ爾後殆ソド人間ニ傳存セザルモノト考エラルルニ至リシ原因ナル可シ。恐ラクのゝすハ自説ノ容レサルハ勿論終ニハ其自由貿易論ノ爲メニ一身上ニ累ヲ被ル可キヲ恐懼シテ版本ヲ破却シタルナル可シトノコトナリ。ほらんだーハ其重刷叢書ノ解題ニ於テ曰ク、

*It is doubtful whether the Essay, as originally printed, received any attention or served any use. For a considerable period, indeed, it was supposed to be entirely lost. Writing in 1744, Roger North intimated that the tract was designedly suppressed, and declared "it is certain the pamphlet is, and hath been ever since, wholly sunk, and a copy not to be had for money."*⁶⁾

ト兎ニモ角ニモ彼ハ克ク英傑保身ノ道ヲ解シタルモノノ如クをれんじ、うありむ侯ノ即位ノ後ニ於テモ他ノ多クノ論客志士ノ如ク亡命ノ客トナルコトナク兄ぎるふをーど卿ノ子女ノ保育ト自家善財ノ業トニ専念シテ無事ニ晩年ヲ送レリト云フ。斯クシテ此英國經濟學史上ノ一大產物ハ永ク世ニ忘レラレ爾後百年全ク其跡ヲ絶テリ。然ルニ十九世紀ノ初頭英國經濟論ノ盛ヲ極メ穀法ノ存否ニ胚胎スル自由貿易可否論ノ喧シキヤ彼ノ弟ろーじあーノ殘セル彼ノ傳記中ニ載セタル此書ニ關スル記事ハ熱心ナル學者ノ注目トスル所トナリ自由貿易論ノ陳吳タル此『貿易論』ヲ尋討スルモノアリ終ニ有名ナル弄錢家るーでんぐノ藏書中ニ一本ヲ見出し千八百二十二年えぢんばらニ於テ

6) Introduction p. 1.

之ヲ翻刻スルモノアルニ至レリ。其發見者翻刻者ノ誰ナルカハ詳ナラズほらんだーハまゝろつく
 即チ其人ナル可シト云ヘリ。續テ千八百四十六年再刻アリほらんだーハ是レ又タまかるつくノ
 力ニヨルモノナル可シト云ヘリ。千八百五十六年ニハまかるつくハ此書ヲ其『商業稀觀書集』中ニ
 收メタリ。ほらんだーハ千六百九十一年版ノ原本ヲ其重刷叢書ノ一トシテ千九百七年ニ印行シタ
 レバ吾人ハ遺憾ナク其惠ニ浴スルヲ得ルナリ。

サテのーすノ『貿易論』ハ長キ序文ニ續テ第一『利息引下グ論』¹¹⁾第二『鑄貨論』¹²⁾第三『追録』¹³⁾ノ三部ヨ
 リ成ル。彼ハ序文ニ於テ自家主張ノ要點十三箇條ヲ掲グルコト左ノ如シ。

- (一) 貿易ノ上ニ於テハ全世界ハ猶一國一民ノ如ク各國ハ猶一國中ノ各人ノ如キノミ
- (二) 或一國ト一國トノ貿易ノ廢滅ハ單ニ其國貿易上ノ損タルニ止マラズ全世界貿易ニ取リテノ損失ナリ。何トナレバ世界ノ貿易ハ合シテ一體タルモノナレバナリ。
- (三) 如何ナル貿易ト雖モ公共ニ不利ナルモノアルコトナシ。何トナレバ或貿易ガ眞ニ不利ナリトセンカ人々ハ自ラ之ヲ已ム可ク而シテ貿易商ノ繁榮スルハ必竟其屬スル全體タル公共ノ繁榮タレバナリ。
- (四) 或人々ヲ強制シテ一定ノ制限ノ下ニ貿易ヲ營マシムルハ或ハ其人々ヲ利スルコトアランモ公共バ之ニヨリテ利スルコトナシ。何トナレバ是レ國中ノ一方ヨリ奪ヒテ他方ニ與フルニ外ナラサレバナリ。
- (五) 如何ナル法律ヲ以テスルモ貿易上ノ價格ヲ制定スルコト能ハズ價格ノ率ハ其自ラ成ルモノ又タ成ラザル可カラザルモノトナリ。故ニ此クノ如キ法律ハ多クケレバ多キホド貿易ニ害アリ。
- (六) 貨幣ハ一ノ商品ニ外ナラズ從テ一國ニ存スル貨幣ニハ不足ノ生ズルコトアルト共ニ又タ過剩ノ起ルコトアリテ其過剩ハ國ノ不便タルコト亦タ之レアリ。

6) 前段ニ引用ス
 7) 此手ク入如キ正解題トモ亦
 8) 前掲書解題トモ亦
 9) 予ハ此版
 Lord Murray, 寄贈ニヨリテリカるどノ
 此書ハ予ニ寄贈スル所ナリ』ト云ヘリ、
 與ヘテ此書ノ著者トシテ、
 思ハシクハ、
 126. p. 126.
 1895. p. 126.
 Roscher
 1846

(七) 國民ハ日常ノ取引ニ要スル丈クノ貨幣ヲ缺ク能ハザルト共ニ其以上ハ之ヲ要セズ。

(八) 單ニ貨幣ヲ多ク得ルコトハ富ト同シカラズ又々對價ヲ以テ購フノ外貨幣ヲ得ル道ナシ。

(九) 自由鑄造ノ制ハ絶エズ貨幣ノ鑄解收鑄ヲ促ガシ之ニヨリテ公共ノ費用ヲ以テ金鍛冶及鑄造業者ヲ養フ所以ニ外ナラズ。

(十) 貨幣ノ輕鑄ハ相互ナ欺ク所以ニシテ公共ニ取りテ何等ノ益ナシ。貨幣ハ固有以外ノ性質又ハ價值アルヲ許サザルモノナレバナリ。

(十一) 貨幣ノ輕鑄ハ參和物ニヨリテナスモ重量ニ於テナスモ其作用異ルコトナシ。

(十二) 爲替ヘ輸送逆送ノ費ヲ省クノ外現金輸送ト何等異ル所ナシ。

(十三) 貿易ニヨリテ輸出スル貨幣ハ其國ノ富ヲ増ス所以ナリ之ニ反シ戰爭ニ費シ又々外國ニ於テ支拂フ貨幣ハ其レ丈ケ國ヲ貧クス。¹⁴⁾

の一すハ以上ヲ綜括シテ謂ラク「要スルニ一部ノ貿易又ハ利益ヲ指惠シテ他ノモノヲ抑ユルコトハ一ノ曲事タリ又々公共ノ害ナリ。此理ハ多クノ人之ヲ珍奇ト感ズルコト其眞理タルト度合ヲ同フス可シ」ト、而シテ彼ハ此理ヲ一ノ「ばらごつくす」ナリト云フ其意ハ世人ガ意外ト感ズ可キ眞理ナリト云フニアリ。¹⁵⁾

『利息引下ゲ論』ハ法律ヲ以テ利息ヲ制限スルノ不可能ナルヲ立證スルヲ趣意トシ其爲メニ利息ノ本質ニ關シ頗ブル卓越ノ説ヲ下セリ。先ヅ利息引下ゲ論ノ論據トシテ世上ニ主張セラルルモノヲ列擧シテ三種アリトス。(一) 利息低キトキハ貿易ハ獎勵セラレ商人其惠ニ浴ス、利息高キトキハ金貨業者又ハ貨幣ノ所有主一切ノ利益ヲ奪斷ス。(二) 和蘭ニ於テハ利率低キガ故ニ貿易ハ英國ヨリモ

10) 此書モ亦々流布ノ本甚ダ少シ予ハ幸ニ左右田博士架上ノ其書ヲ見ルヲ得タリ。

11) A discourse concerning the abatement of interest.

12) A discourse of coyned money.

13) Postscript.

14) 以上前掲書序文十三、十四兩頁。

15) 前掲書十四頁、With many other like Paradoxes no less strange to most men than true in themselves.

廉價ニシテ英國ハ之ト競争スル能ハズ。三利息高キトキハ地價下落スト。是レ實ニ前述ノ如クカ
 べらー及ちやいるご以降繰返シテ主張セラレタル所ニシテばーぼんモ亦粗ボ同様ノ説ヲ有シ殊
 ニ利子高キトキハ地價下落スルノ理ハ彼ガ極力主張スル所ナリ(前段九以下)。然ルニのいすハ謂
 ラク此等論者ノ主張事實其モノハ眞實ナル可シ然レトモ其原因ハ彼等ノ思フガ如キモノニ非ズシ
 テ利子法定引下ゲ論ニ寸毫モ根據ヲ與ヘズ。今一切ノ論辯ヲ評論スルノ煩ヲ省キ其中心問題タル
 モノノミニ就テ論ズ可シ。即チ政府ハ法律ヲ發布シテ百分ノ四以上ノ利子ヲ取ルコトヲ禁ズ可キ
 ヤ又ハ利子ノ率ハ全然貸借兩當事者ノ取引ニ放任ス可キヤ。是ナリ今此問題ニ答フルニハ先ヅ貿
 易ノ性質ヨリ考ヘ始メザル可カラズ。貿易トハ必竟剩餘ト剩餘トノ轉換ヲ云フモノナリ予ハ予ガ
 剩ルモノヲ汝ガ剩レルモノト代ヘテ與フル是レ貿易ナリ。國ニ就テモ都會ニ就テモ此理ニ二アル
 コトナシ。而シテ此貿易ニ於テ最大ノ利ヲ占ムル者トハ最モ勤勉ニシテ最多額ノ物ヲ生産又ハ製
 作スル人ニシテ此ノ人ハ又タ他人他國ノ產物ヲ最モ多ク得ル人タルナリ。彼ハ缺乏ヨリ自由ニシ
 テ最モ多クノ便宜ヲ享受シ從テ眞ニ富メル人タリ。金銀又ハ之ニ類スルモノ一モ之ヲ有セザルモ
 其富者タルコトニ於テ何ノ妨ナキナリ。但シ金屬ハ多クノ用途ニ必要ニシテ他ノ產物ト同ク世界
 ノ產物タリ。就中金ト銀トハ其性ノ美ナルト其量ノ少ナキ事ニヨリ價貴ク而シテ容易ニ腐朽セザ
 ルニヨリ、又運搬ニ便ニシテ少量ヲ以テ高價ナルニヨリ貨幣トシテ廣ク用ラルルモノニシテ其貨

16) Roscher (a. a. O. S. 86) ハ曰ク、Das Auffallende seiner Lehre von der Handelsfreiheit war ihm klar, er nennt sie "Paradoxen, nicht weniger fremd der meisten Menschen, als wahr in sich selbst". Desshalb fingirt er auch aus Vorsicht, als wenn sein Buch von einem Freunde verfasst, und von ihm nur herausgegeben worden.

* Roscher, (a. a. O. S. 87) ハ此ノ一節ヲ以テのいすノ富ニ對スルニ定義ナリト云ミ、
 フモ其ハ獨逸學究流ノ解題ナリ、のいすハ唯だ行論ノ順序トシテ之ヲ言ハルノ予ハ
 Roscher の一評論ハ全體ヲ通シテ此種ノ淺薄ナル解説ヲ下ス多シ、予ハ與
 スル能ハズ。

幣タルハ法律ノ力ニヨルニアラズ。(ばーぼん説ト比較セヨ!)個人モ國家モ都市モ其消費スル所ヨリ生産スル所多ク此剩餘ヲ後世ニ傳フルニヨリテ富有ヲ致ス剩餘ヲ後世又ハ他人ニ移轉スルニハ金銀ノ貨幣ヲ以テスルコト普通ナリ。一方ニ富者アレバ他方ニ貧者アリ貧富ノ區別茲ニ於テ起リ、自己ノ使用シ得ル以上ニ土地ヲ有スルモノアリ貨物ヲ有スルモノアリ。土地ヲ有スルモノハ自己所要以外ノモノハ之ヲ他人ニ貸シ、貨物ヲ多ク有スルモノハ之ヲ貿易場裡ニ出ス。土地ヲ貸スモノハ地代ヲ收メ貨物ヲ賣出スモノハ其價ヲ收メテ餘裕ノ富ヲ作ル。二者ハ其理ニ於テ異ルコトナシ。而シテ耕ス可キ土地ヲ有スル人ノ數ヨリハ土地ヲ耕ス可キ人ノ數ハ多ク資本ヲ有スル人ノ數ヨリハ資本ヲ求ムル人ノ數ハ多シ。他方ニハ國如何ニ富ムトモ其所有スル資本ヲ自ラ運用スルノ才能ヲ有セザルカ又ハ其勞ヲ厭フ人ノ手ニ資本ノ多ク存スルコトヲ免レズ。此等ノ人ハ土地ヲ多ク有スルモノガ地代ヲ收メテ之ヲ他人ニ貸與フル如ク其有スル資本ヲ他人ニ貸シテ報酬ヲ收ム可シ。此報酬ハ即チ利子ナリ。利子トハ資本ニ對スル貸貸料ナルコト地代ガ土地ニ對スル貸貸料タルト毫モ分ツ所ナシ。多クノ國語ニ於テ金錢ノ貸付モ土地ノ貸與モ同一語ヲ以テ言ヒ表ハサレ英國ニテモ地方ニヨリテハ又タ然ルヲ見テ知ル可シ、即チ Landlord タルト Stock-lord (此語造リ得テ甚ダ巧妙ナラズヤ)タルト其間何等軒輊スル所ナシ、唯ダ地主ガ金主ニ勝ル點ハ借地人ハ其借地ヲ任意ニ運ビ去ルコト能ハズ借金人ハ任意ニ其借錢ヲ持去リ得ル一事ニアルノミ。是レ金錢ノ貸付ハ土地ノ貸付ヨリ

モ危險多ク利子ハ地代ヨリモ其率高カラザルヲ得ザル所以ナリト。のゝすノ爛眼ハ最近ノ學說ノ漸クニシテ到達セル所ヲ看破シタルモノニシテあだむ、すみす以後殊ニりかると以後ノ謬説ハ毫モ彼ニ見ルコトヲ得ズ土地モ資本モ同一ノモノト見利子モ地代モ均シク財産ノ使用ヲ他人ニ許シテ收ムル貸貸料ナルコト、而シテ土地ト資本トノ唯一ノ差別ハ其動不動性ニアルコトヲ明言ス、卓見敬仰ノ外ナキニ非ズヤ。

彼ハ更ラニ論歩ヲ進メテ謂ラク、穀物、羊毛其他ノ貨物ハ其量多キホド價安ク、買手ノ要スルヨリ市場ニ提出セラルル分量多キホド價格下落スルト均シク、金錢ノ借手ヨリモ貸手多キトキハ利子ハ下落スルナリ。サレバ普通主張セラルル如ク利子安キガ故ニ貿易榮ユルニ非ズ貿易榮ユルノ富増スニヨリテ利子ハ下落スルナリ。論者曰ク和蘭ニ於テハ英國ニ於ケルヨリモ利率低シト誠ニ然リ。其然ル所以ハ和蘭ハ英國ヨリモ資本ニ富ムガ故ナリ和蘭ノ利率低キガ故ニ和蘭ハ富メルニアラス。和蘭ニ於テ利率ヲ制限スル法律ヲ發布シタルヲ聞キシコトナシ。今日和蘭商人間ノ利率ハ六分ヲ普通トス。元ヨリ三分又ハ四分ノ利率ヲ見ルコトアリト雖モ其ハ抵當品アル場合ノコトニシテ而モ個人相互ノ約束ニヨリテ爾ク定メラルルモノニシテ嘗テ法律又ハ強制ニヨリテ然リシコトアルナシ。貸借ニ二種アリ(一)對物貸借(二)對人貸借之レナリ兩者ハ決シテ混同ス可カラズ對物貸借ノ利率ヲ對人貸借ニ期待スルハ誤ナリ。又タ商業用ノ貸借ト自己ノ奢侈ノ爲メニスル貸借トハ

同一視ス可カラズ。事實ニ於テ利率低キハ貿易ヲ促成スルヨリモ却テ奢侈ヲ助長スル傾アリ。貧
キ商人ハ其資本乏ク又、皆無ナル爲メ富商ヨリ掛ニテ品物ヲ仕入レ之ニ對シ事實上五分、六分、
八分否一割、一割二分ノ高利ヲ支拂フモノニシテ如何ナル法律モ之ヲ禁ジ又ハ救濟スル力ヲ有セ
ザルナリ。即チ利息制限ノ法律ハ此種商人ニ何ノ利益ヲモ與ヘズ。或ハ云ハン掛買ヲ廢シテ利附
貸借ニヨラシム可シト然レトモ政府ニシテ特ニ其元本ヲ供給ス可キ制度ヲ設クルニアラザレバ其
ハ言フ可ク行フ可カラザルヲ奈何セン。

斯クノ如ク利息ノ制限ハ寸效アルナク貸借當事者ヲシテ各其事情ニ從テ任意ニ取引スルニ放任
スルノ最善ナルコトヲ知ル可シ。是レ實ニ論者ガ常ニ摸範トシテ推稱スル和蘭ノ執ル所ノ方法ナ
リ。國ニシテ榮エ且ツ富ム限リ金利ハ安カル可ク反對ニ衰へ且ツ貧シキハ金利ハ高カル可シ。
此鐵案ハ何物ヲ以テスルモ變更スルヲ得ズ。政府ガ地代ヲ制限シ得ザル如ク金利ハ之ヲ制限スル
ヲ得ズ。必ズ何等カノ方法ニヨリテ法網ヲ潜ルコトトナリ害ヲ醸スノミ if you take away interest,
you take away Borrowing and Lending 殊ニ利子制限ノ爲メ地主ガ抵當借ヲナス能ハズ其所有地ヲ
賣ルノ外ナク其結果地價ノ下落ヲ來タス可ク、商人ハ資本ヲ借り得ザルガ爲メニ其業ヲ廢スルカ
又ハ掛買ヲナスノ外ナキニ至ラント。是レ彼ガ極方法律ヲ以テ利子ノ引下ゲヲ實現セントスル説
ヲ斥ケ、利子ノ低減ハ唯ダ國富ノ増加從テ貸付資本ノ増加ニヨリテ之ヲ實現シ得可キモノナリト

主張スル所以ナリ。かるべらー又ハじよんろつくニ比シのーすノ意見ノ遙カニ進歩的ナルコトハ今絮説ヲ須ヒス。

『鑄貨論』ハ『めるかんちりすむ』ノ宿説タル鑄貨充實論ヲ痛切ニ排撃シ國內ニ於ケル金銀貨ノ分量ノ如キハ特ニ懸念ヲ要スルニ及バズ一ニ貿易ノ大勢ニ任ズ可キモノナリトノ自由貿易説ヲ主張スルモノナリ。のーすハ其結論トシテ左ノ如ク云ヘリ。

That Laws to hamper Trade, whether Foreign, or Domestic, relating to money, or other merchandizes, are not ingredients to make a People Rich, and abounding in money, and Stock. But if Peace be procured, ease Justice maintained, the Navigation not clogged, the Industrious encouraged, by indulging them in the participation of Honours, and Employments in the Government, according to their Wealth and Characters, the Stock of the Nation will increase, and consequently Gold and Silver abound. Interest be easie, and Money cannot be wanting.

(外國又ハ内國ノ貿易ヲ貨幣又ハ其他ノ商品ニ關係シテ抑制スルコトハ決シテ國民ヲ富マシメ貨幣ト資本トヲ充實セシムル要件ニ非ズ。之ニ反シ平和ヲ保チ正義ヲ維持シ航海ヲ妨害セズ產業者ヲ獎勵シテ其富ト性格トニ應ジテ名譽ト政府ノ公務トニ與カラシムルトキハ國ノ資本ハ増加シ從テ金銀ハ充實シ利率ハ低下シ貨幣ニ不足ヲ告グルコトナキニ至ル可シ)。

彼謂ラク金銀ハ其稀少ナルガ爲メ、小量ニテ價貴ク又タ之ヲ運搬シ保管スルニ容易ナル爲メ、世界ニ於テ人ト人トノ取引一切ノ共通ノ尺度トナリシモノニシテ、而シテ此便利ヲ更ラニ増サンガ爲メニ一々其目方ト品位トヲ檢スルヲ省ク方法トシテ鑄貨ノ制起レリ、カクテ世界ノ貿易ハ甚ダ容易トナリ凡テノ取引ハ貨幣アラバ用ヲ便ズルニ至レリ。故ニ物ヲ賣ルハ即チ貨幣ヲ得ルコト

ト同一事ト看做サレ之ヲ得ザルモノハ物ノ賣レザルヨリモ貨幣ノ不足ナル爲メナリト思惟シ貨幣ノ不足ヲ訴フルノ聲喧シキコトトナレリ。然レトモ貨幣ノ不足ナルニアラズ其原因ハ他ニ在ルナリ。其今理ヲ明カニセンニ、人アリ其財産ヲ悉ク貨幣又ハ金銀塊ニ換ヘタリトセヨ、彼ハ爲メニ毫モ富ヲ増サズ否却テ貧シクナルナリ。財産ハ貸付土地ニセヨ貸付貨幣ニセヨ商賣用品ニセヨ、凡ソ如何ナル態ニアリトモ増殖可キ状態ニ在ル人ガ富者タルナリ、然ルニ凡テ現金ニ換ヘテ之ヲ退藏スルトキハ毫モ増殖セズ富ハ却テ減ジ行ク一途アルノミ。貨幣ノ不足ヲ訴フル人ニ就テ見ヨ、先ツ乞食ハ如何、彼ハ貨幣ヲ乞フモ其ハ之ヲ退藏セン爲メニアラズ之ヲ以テ「パン」ヲ買ハンガ爲ナリ、即チ彼ハ貨幣ヲ乞フニアラズ實ハ「パン」ヲ乞フモノニアラズヤ。農夫ハ如何彼ガ貨幣ノ不足ヲ訴フルハ貨幣多クレバ彼ノ産穀ガ良キ價ヲ以テ賣ラル可キ爲メニアラズヤ、彼ノ求ムル所實ハ貨幣ニアラズシテ價格ナリ、彼ガ高キ價格ヲ得ル能ハザルハ決シテ貨幣不足ノ爲メニ非ズ其原因ハ凡ソ三アリ。(一)國中ニ穀物并貨物多クシテ賣ラントスル者買ハントスルモノニ超過スル爲メ(二)戰爭其他ノ事變ニヨリ運送不安ナルカ又ハ禁止セラレ爲メニ普通ノ販路ノ制限セララル爲メ(三)貧乏其他ノ事情ニヨリ消費減少シ從來ノ需要以下ニ落ツル爲メ是レナリ。此等ノ原因ハ正貨ヲ如何ニ増加シタリトテ之ヲ除却スルコト能ハザルヤ明ナリ。貿易ノ上ニ於テ金銀ハ他ノ商品ト何等異ル所ナキモノニシテ其剩レル者ヨリ取リテ缺ク者ニ供給スルニ外ナラズ。勤勉ナレ

富ミ忘情ナレバ貧ニ落ツ、如何ナル政策モ之ヲ左右スルコト能ハズ。此理ハ極メテ簡單明瞭ナ
 ルニ拘ラズ之ヲ解スル者甚ダ少ク却テ人爲的ニ法律ノ力ヲ以テ貿易ノ持來セル一切ノ金銀ヲ國中
 ニ止メ得從テ富國タリ得可シト思惟スルハ甚シヤ謬想ニシテ富國ノ道ヲ妨グルコト大ナリ。手近
 キ例ヲ取リテ考エ見ヨ、一都市ニ於テ法律ヲ以テ一切金銀ノ搬出ヲ禁ジタリトセヨ其都市ハ賣ル
 ノミニシテ買フ能ハズ其結果他ノ都市ハ此都市ト一切ノ取引ヲ斷念スルニ至リ其都市ハ孤立シテ
 一切他都市ノ富ヲ得ル能ハズ自己ノ產物モ之ヲ賣ル能ハザルニ至ルヤ必定ナリ。是レ奢侈禁止法
 律ヲ存スル國ノ概シテ貧シキ眞因ナリ、又タ外國貿易ノミ國ヲ富マストシ内國商業ハ然ラズト爲
 スモ誤レテ外國貿易ノ繁昌センニハ必ズ内國商業アルヲ要スルナリ。貨幣制度ヲ圓滿ニ行ハシ
 ハ鑄造局アルヲ便トスルハ勿論ナレトモ之レナクトモ其國ニシテ富ム限リ其要スル貨幣ハ之ヲ得
 ルコト難シトセズ。之ニ反シ必要以上ニ貨幣増加スルトキハ其價值ハ地金ト同様タル可ク從テ溶
 解行ハル可シ。鑄造局アリトモ之ヲ妨グルコト能ハザルナリの一オ即チ曰ク、

Then let not the care of Specifick money torment us so much, for a People that are rich cannot want it, and if they
 make none, they will be supplied with the coin of other Nations; and if never so much be brought from abroad, or ne-
 ver so much coined at home, all that is more than what the Commerce of the Nation requires, is but Bullion, and will
 be treated as such; and coined Money, like wrought plate at Second hand, shall sell but for the Intrinsick.¹⁸⁾

(然ラバ正貨ニ關スル憂慮ヲ以テ吾人ヲ憐マサシムルコト勿レ、國民ニシテ富ム限リ決シテ正貨ニ事缺クニトナカル可ケレバ
 ナリ。自ラ一ノ正貨ヲ鑄ラズトモ他國ハ其鑄貨ヲ我ニ供ス可ク、又タ外國ヨリ輸入シ自國ニ於テ鑄造スル所如何ニ多クトモ
 國ノ商業が必要トスル以外ノモノハ單ニ一ノ地金タルニ過ギズシテ地金トシテノミ取扱ハル可ク鑄貨ハ金銀製作品ト同ジク
 唯ダ其地金ノ價ヲ以テ賣ラルルニ過ギザルナリ)

而シテ彼ハ更ニ其『追録』ニ同一ノ問題ヲ再説シ Plenty of anything makes it cheap ノ理ニ基キテ徒ラニ國ニ金銀ヲ蓄積スルノ愚ヲ鳴シ且ツ曰ク『貨幣ハ常ニ何人カニ所有セラレンコトヲ欲スルモ施ヲ求ムル乞食ノ如ク來ラズ必ズ對價ヲ提供スル人ノ購フヲ待ツ』貨幣ハ海水ノ如ク干満アリ或ハ餘リ或ハ足ラザルコトアリ而モ其干満ハ必ズ自ラノ作用ニヨル決シテ政治家ノ力ヲ藉ルモノニ非ズ又タ之ヲ輕鑄シ參和金屬ヲ多クスルトキハ其價ハ必ズ之ニ準ジテ下ル可ク變ズル所ハ唯名目ノミ其實價ニ至テハ何人モ人爲ヲ以テ左右スルコト能ハズトシテ結論スラク Thus we may labour to hedge in the Cuckow, but in vain; for no people ever yet grew rich by Policies; but it is Peace, Industry, and Freedom that brings Trade and Wealth, and nothing else. (カクテ吾人ハ郭公ヲ圍ヒ込マント如何ニ焦慮スルモ其ハ徒勞ナリ、如何ナル國民モ政略ニヨリテ富有ヲ致セルコトアラズ、國ニ貿易ト富トヲ齎ラスモノハ平和、産業、自由アルノミ、他ニ何物モアルコトナシ)ト。彼ガ商軍國主義ト謬レル金銀過重論トヲ斥ケテ自由ニシテ公明ナル海商帝國ノ爲メニ萬丈ノ氣ヲ吐クヲ見ズヤ。憾ムラクハ大言俚耳ニ入ラズ這箇自由進取ノ福音ハ全ク時人ニ忘レラレ百年ノ後ひゆるむ起リすみす出デテ再ビ新タニ之ヲ唱道スルマデハ寸毫モ顧ミラズはらんだーガ彼ノ書ヲ評シテ of interest rather than of influence トニヘル言全ク中レリ。學說ノ顯晦ハ眞平學者ニ取リテノ第一事タラザルハ言フマデモナシ、然リト雖モ切リニ聞達ヲ求メテ已マザリシ彼だどれーのーす其人ニシテ一世ニ傑出スル其大思想ガ這般ノ運命ニ陷レル其心事憐ム可ク又タ悲ム可キニアラズヤ。

* Money will always have an Owner, and never goeth a Beggar for Entertainment, but must be pur chased for valuable consideration in *Solido*. loc. cit. p. 35.
19) 前掲書解題第四頁。